



小国町気候非常事態宣言

私たちのまち小国町は、昔も今も変わりなく豊かな自然に恵まれた町です。それは、悠久の中で幾世代もの先人たちがしっかりと守ってきたかけがえのないものです。私たちの役目はそれを受け継ぎ、次世代へと繋ぐことにあります。

その一方で、小国町はその地形から大きな自然災害を経験してきました。1991（平成3）年の台風では多くの風倒木が発生し、被害が拡大しました。また、その災害が起因となり、土砂災害で命が失われることになりました。2005（平成17）年の集中豪雨では山腹が崩壊し、流木や土石流による堤防・護岸の決壊、床上・床下浸水、水田やハウスなどの農業施設にも甚大な被害が発生しました。

昨今、世界各地そして我が国においても、これまで経験したことのない酷暑、短時間における集中豪雨、巨大化する台風など、各地で気候変動に起因すると考えられる異常気象が多発し、多くの被害が発生しています。小国町でも、地球温暖化が原因と考えられる降雨量・降雪量不足による豊かな湧水や地下水の減少、害虫発生など農林業や生活への弊害が心配されています。

気候変動は、人間社会や自然界に対する極めて深刻な脅威です。悠久の歴史が育んだ自然の恵みを受け、その恵みを再生可能エネルギーとして活用してきた小国町だからこそ、今ひとつつになり、気候変動の要因とされる温室効果ガスの削減に向けて行動を起こさなければなりません。

小国町は、ここに気候非常事態を宣言することにより、環境問題に正面から向き合い、SDGs未来都市としてかけがえのない地域資源である地熱と森林資源を活かしながら、循環型の社会と多様な産業を創出し、社会・経済・環境の3側面の統合的取組の中で、将来にわたって持続可能な町となることを目指し、すべては次世代のために、次のことに取り組めます。

- 1 SDGsの達成を目指し、適正な開発を行います。
- 2 町民のみなさんと一緒に、積極的にSDGsの取組や気候変動の危機についての周知啓発に努め、他自治体との連携を広く呼びかけます。
- 3 森林の適正な管理による温室効果ガスの排出抑制等に取り組むことにより、森林、里山、河川の良質な自然循環を守ります。
- 4 小国町の地熱を活用した発電や木材乾燥に関する情報を発信するとともに、北里柴三郎博士の理念である「学習と交流」の中で小国町の豊かな自然の恵みを再確認できる仕組みを構築します。

2020（令和2）年3月18日

小国町長

渡邊誠次